

祈り石と駒立岩

1185 年に行われた屋島の戦いの重要な出来事は、日本の歴史の中で伝説となっており、屋島周辺に記念されている。牟礼の町は、平氏と源氏が戦って源氏の決定的な勝利に終わった源平合戦（1180 年～1185 年）のこの歴史的な戦いで重要な役割を果たした。牟礼にある「祈り岩」と「駒立岩」は、いずれも源氏の武将・那須与一（伝 1169 年～1232 年）の物語に関連している。

戦いの合間に、平氏の船に乗っていた女官が棒の先につけた扇を振って陸上の源氏軍を挑発していた。それを受けた与一は、まず祈りを捧げてから弓を構えたと伝えられている。祈りを捧げた場所は「祈り岩」と呼ばれている。そして、与一は馬に乗って水の中に入り、弓を構えて放ったところ、奇跡的に扇子を直撃したという話だ。駒立岩は、その矢を放った場所を示している。駒立は「馬上に立つ」という意味で、鐙（あぶみ）の上に立って矢を放ったという説がある。